

## 『お昼の放送の時間です』を読んで

弘前市立福村小学校

造田陽央里

わたしは、『お昼の放送の時間です』というお話を読みました。この本を読んだ理由は、タイトルが、セリフみたいでおもしろそうだなど思ったからです。

四年生のかえでは、おしゃれな放送をしたくて、三年生のころからきめていた放送いんになりました。しかし、かえでと同じ曜日に放送するペアになったのは、なかよしのきりちゃんではなくおちょうどし者の同級生、こうへいでした。こうへいは、放送の時、へんてこな学校クイズを出したり、ひまだと言つてかえでの放送によけいなこうか音を入れたりしてくるので、わたしは、こうへいってへんなだなと思いました。でも、こうへいの家に行つたり、こうへいのお母さんに会いに、いつしょに電車に乗つて行つたり、そのあとさくらがおかげうえんに行つたりしているうちに、ちよつとずつこうへいのいいところが、かえでは分かつてきんだと思いました。そして、わたしもこうへいのよさを感じきました。こうへいは、三年生の夏休み、お父さんとお母さんがありこ

んして、本当は、お母さんとくらしたかつただろうと思うけど、お父さんが一人だとわいそุดだから、お父さんにはこうへい、お母さんには弟と決めていて、こうへいは、やさしいんだなと思いました。

前、放送で三年の二学期から上ばきを洗つていないと書いていたけど、お母さんとはなれてくらしているからなのかなと思いました。こうへいは、明るく言つていたけど本当はさみしい気持ちを、がまんしているのかなと思いました。

はじめは、相手のいいところが分からなくていやだなどばかり思つていたけど、さい後は相手のことをおたがいに思いやられていて、よかつたなだと思います。

わたしは、このお話を読んで、はじめはいやだなと思つても、やれば楽しいなと思つたり、いいことがあつたりするんだなと思いました。もし、この本のつづきがあれば、もつともつとこうへいとかえでの放送を、聞いてみたいです。